



くらしの中の木製品

青谷上寺地遺跡からは、約6000点の木製品（建築部材を除く）が出土しています。中でも、1000点にのぼる容器類には、高杯や壺など秀麗な加工を施し、特別な用途が考えられる「精製容器」のほかに、使用するための必要最小限の造形とした、日用使いの「粗製容器」が多数みられます。粗製とは呼びますが、その造形は機能的で美しいものです。

槽・盤・桶

大径木のスギで作られた大型品が多くみられます。把手や脚など、使用するために必要最小限の造形を加えています。

腰掛

地面からの高さがあまりないものが多いですが、多様な形態があります。古墳時代の人物埴輪が座る腰掛の例によく似たものも出土しており、祭りや儀式の際に使われたものと思われます。

匙

これまでに約100点が出土し、大きさや形態も多様で装飾を施すものがあるなど、当遺跡に根付いた文化の一つといえます。中国の歴史書『魏志倭人伝』には、弥生人（倭人）の習俗として、「食事は手づかみで食べる」という記述がみられますが、青谷の人々は匙を多用していたようです。

指物箱

複数の板材を組み合わせて作る指物箱などは、組み合う位置をあらかじめ正確に決めておかなければならないもので、高度な技術を駆使して精巧に製作されたことが分かります。

このほか、紡織具など、様々な日常使いの品々が出土しており、青谷上寺地遺跡での日常生活の姿を彷彿とさせます。



槽・盤



槽・盤



槽・盤



桶

槽・盤、桶



腰掛



匙



指物箱